

複数の商品のパンフレットを取り寄せても、仕組みが複雑で単純に商品比較ができないのが保険。自分にあった保険を選ぶことは難しい。保険に対するニーズと実際に選んだ商品がミスマッチを起している代表的な事例を挙げてみた。

【ケース① 高額の死亡保障が付いている】

独身で親を扶養していない場合、高額な死亡保障は必要ない。特に貯蓄性がない掛け捨て型の保険は見直してもいいだろう。インターネットで生命保険に関する情報提供を行う保険マンモス(東京・品川)の古川徹社長は「周囲も入っているとか、販売員に勧められたからと、必要がない保障に掛け捨てるのは無駄」と指摘する。中には三千万円もの死亡保障を付けている人もいるというので要注意だ。

独身女性が加入しやすい医療、終身、年金保険

35歳女性(入院日額1万円、保険期間は終身)の場合の月額保険料

医療保険	35歳女性(入院日額1万円、保険期間は終身)の場合の月額保険料				
	60歳払い込み完了	65歳払い込み完了	終身払い	試算に使った1入院の上限日数	専門家の選択ポイント
低解約総合医療保険 ソニー生命	8090円	7040円	5390円	全てのケースで120日	基本的機能がバランス良くそろっている
fit w オリックス生命	6440円	—	4150円	60日 60歳以降120日	入院上限日数について合理的な設計
セルフガード アクサ生命	—	6300円	5060円	7大疾病は180日 その他は60日	7大疾病を厚くした設計
Dr.ジャパン 損保ジャパン	8600円	—	5030円	全てのケースで120日	唯一の金利感応型商品(金利が上がると保険料が下がる)
EVER アメリカンファミリー生命	—	—	3850円	全てのケースで60日 ケガ入院の保障は90歳まで	終身払いのみだが保障を絞り低価格に設定

(注)保険マンモスの古川徹社長のアドバイスをもとに作成